

## 中央大学 2026 年度一般選抜【出題の意図】

試験日：2026 年 2 月 15 日

学 部：経済学部 II

科 目：日本史

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

出題にあたっては、歴史総合、日本史探究の範囲における、①歴史的事象の基礎的な知識を習得しているか、②それらの知識の関係や論理を理解しているか、③史資料を適切に分析・解釈できるか、を意識しています。歴史は暗記であるという誤解を助長しないよう、歴史の深い学習に誘うような出題を心がけています。

大問 I は、〔A〕のパートでは摂関政治期の政治史を、〔B〕のパートでは中世の経済に関する諸事項を、〔C〕のパートでは「弘仁格式序」を素材として史料の読み取りの技能や古代史の理解を問いました。出題にあたっては、問いたい内容が明確であることに加えて、多角的な力を問えるように努めました。

大問 II は、豊臣期から江戸時代にかけての経済政策・産業構造・貨幣制度・都市発展・文化動向などについて、事実関係を正確に理解しているかを確認することをねらいとしています。用語の表面的な暗記ではなく、制度の内容や相互の関連性、歴史的背景を踏まえて適切に判断できているかを問うています。また、雄藩の特徴を地理的位置と関連付けた理解力も求めています。

大問 III は、近代の日本経済史を主たる対象に、歴史総合の範囲も含みながら出題しています。日本の近代化は、欧米の産業革命の進展を背景に急速に進む一方で、大きな課題も残すことになりました。問題を解きながら、日本の近代とは何だったのかを考えてもらうことを企図しています。

大問 IV は、高度経済成長期を主な題材としています。高度経済成長期は大衆消費社会をもたらし、国民の暮らしを比較的豊かにした一方、都市部への人口集中、地方の過疎化、企業による環境への負荷などの社会問題を誘発しました。この問題は、当時の出来事を社会問題とも絡めながら、経済成長がもたらす影響を考えることを意図しています。

以上